

再処理工場のウラン試験時に発生が予想されるトラブル等とその対応 (No. 9 - 15)

件名	計器点検時の隔離ミスによる工程停止	
事象の概要	<p>(1) 発生場所: 機器 精製建屋: 液位計</p> <p>(2) 発生の状況 計測制御設備点検中</p> <p>(3) 概要 液位計点検時の隔離作業において、A 槽の液位計の弁を閉止するところを誤って B 槽の液位計の弁を閉止したため、インターロックの誤動作により工程停止 * 他建屋も含め同種の作業においても同様の事象の発生が予想される。</p>	
事象による影響	<p>(1) 工場外への影響 工場外への影響は生じない。 建屋の換気設備が稼働している室内での事象及びそれに伴う復旧作業であり、放射性物質の放出等の工場外への影響は生じない。</p> <p>(2) 安全性への影響 安全上の問題は生じない。 インターロックの作動により工程が停止することから、これ以上の事象の進展がなく、安全上の問題は生じない。</p> <p>(3) 作業員への影響 作業員への影響は生じない。 液位計点検時の隔離作業は定められた放射線管理要領に従い、作業計画に沿って効率的に作業を進める事により、作業員への影響は生じない。</p> <p>(4) 他工程への影響 他工程への影響は生じない、または上流、下流の工程の運転に影響が生じる。 B 槽の液位計測に影響が生じるが、貯槽によっては、他工程の運転に影響を生じないものもあれば、その上流、下流の工程の運転に影響を生じるものもある</p>	
対応の概要	<p>(1) 隔離ミス発見後、早急に点検前の状態へ復旧する。</p> <p>(2) 復旧後、プロセス値及び他工程に影響を与えていないか確認する。</p> <p>(3) 復旧後プロセス値等が点検前状態に戻っていることを確認し、再度隔離手順に従い隔離を行い点検を実施する。</p>	
公表区分	毎月集約して月 1 回公表 (ホームページへ掲載)	
対応区分	<p>(a) 運転継続しながら復旧</p> <p>(b) 運転システムを切り替えて復旧</p> <p>(c) 当該機器を停止して復旧</p> <p>(d) 当該設備を停止して復旧</p> <p>(e) 影響範囲の設備を停止</p>	<p>国際評価尺度 (INES) のレベル</p> <p style="text-align: center;">0 以下 1 2 3 4 5 6 7</p> <p>(レベル2以下は工場外への影響はない)</p> <p style="text-align: right;">放射能物質の外部放出 → 工場外への影響</p> <p style="text-align: center;">放射能物質による汚染、被ばく等 → 工場内への影響</p> <p>日本原燃による評価: レベル0以下</p> <p style="text-align: center;">運転時制御範囲からの逸脱等 → 多重防護の劣化</p>

